

退職にあたって

星 圭 介（事務部）

この春で丁度13年間を理学部で過ごしたことになります。農学部演習林を振り出しに、東大の一員として、今日まで人生を送ってこられたのは多くの人々に暖く接して頂いた賜と心から感謝して居ります。理学部での数多い思い出や、心痛む事やら、幾多の経験を経て、自分なりに仕事を果たした積りです。構内の三四郎池のほとりの木立の四季を眺めては、この林相が〇〇演習林の何林班にあった樹木によく似ていると、自分なりに解釈して、葉脈やら、木のおいなど胸一杯に吸いこんでは、これは何々と自分なりに診断する。演習林のある先生と秩父の山奥で一夜を伴にした時、先生は君達、不満があった場合、この山奥で、木を

枕にして、大の字に寝たまえ、この山が俺一人で動かすことが出来るとさとした場合、天下をとった気持ちになる。これが最高だ。この先生の話も若い頃は別に深く考えなかったが、山を愛し、林を愛した先生の長い体験から、若い吾々にそう話して下さった事が今更ながら思い出される。

あと2ヶ月で東大を去る私ですが、多くの先生方や職員の皆様に公私に亘り、親しく接して頂きました。お陰様で大過なく勤めを終えて退官いたしますことが出来て厚くお礼申し上げます。

理学部の益々の御発展と諸先生、職員の皆様の御健康を祈念して退職の御挨拶といたします。